

きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

INDEX

- 「きょうさいだより」
発刊10周年を迎えて…………… ①
- 循環器内科部長 新任ご挨拶…………… ②
- 病院機能評価 Ver.6.0 認定 慰労会を終えて
- 診療活動の現況 麻酔科…………… ③
- 学術講演会 開催報告…………… ④
- 地域医療連携室より
- 佐世保共済病院「真会」のご紹介…………… ⑤
- 佐世保シティロードレースに参加して
- 編集後記
- 外来診療担当表…………… ⑦

「きょうさいだより」 創刊 10 年を迎えて

院長 木寺 義郎



「きょうさいだより」が今年で創刊 10 年目を迎えました。季刊情報誌であり、今号で通巻 35 号になります。これまで本誌をご高覧頂いた皆様にお礼を申し上げます。

本誌発行の目的は創刊号のなかで福井仁士院長（当時）が謳っておりますように、佐世保共済病院の診療活動や情報を病診連携の関係者の方々および地域住民の皆様幅広く提供することにあります。また医学と関連の無い肩の凝らない話題もトピックスとして掲載しており、この編集スタイルは今も変わらないで続いています。

この 10 年間に医療情勢は激変しました。特に平成 16 年度に導入された新医師臨床研修制度により地方大学医学部卒業生の母校での研修希望者が激減し、地域医療の崩壊の危機を招いていることは皆様もご存知のことと思います。来年百周年を迎える当院でも平成 20 年度にその影響で診療科の減少を来し、地域の皆様に多大なご迷惑をおかけしました。幸いにも年毎に復調の兆しが見えてきています。

社会情勢も変わりました。郵政事業の民営化や社会保険庁の機構の再編で、当院の東側に隣接し多目的に活用されていた厚生年金健康センターの存続が不可能になり、解体された跡地にはマンションが建設されています。また本誌のトピックス欄にも取り上げましたが、西九州自動車道が「みなとIC」から佐々町方面まで延伸されており、当院最上階からはその一部が俯瞰されます。この道路の供用により佐世保市の北西部と中心部とのアクセスが良くなれば、県北と佐世保市の医療圏が一体化されていく状況にも対応しやすくなると期待されます。

社会情勢の移り変わりはあっても、これからも地域の皆様になじんでいただける診療活動を志していきます。そのためにも充実した誌面づくりを目指していきますので、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



循環器内科部長 新任のご挨拶

かな や せい じ
金 谷 誠 司



略 歴

- 出身地／佐世保市
- 出身大学／久留米大学医学部 H5卒業
- 主な職歴／
 - 平成5年 久留米大学医学部内科学第三講座入局
 - 平成7年 石原内科循環器科病院
 - 平成8年 久留米大学医療センター循環器科
 - 平成10年 久留米大学病院心臓・血管内科
 - 平成13年 国立別府病院循環器科
 - 平成14年 国立病院機構九州医療センター循環器科
 - 平成16年 久留米大学病院心臓・血管内科
- 専門領域／循環器科 心臓カテーテル検査・治療
- 所属学会／日本内科学会 認定医・指導医
日本循環器学会 専門医
日本心血管インターベンション治療学会 認定医

昨年4月から非常勤として勤務し、本年4月から循環器科常勤として赴任しました。中学卒業後27年ぶりに佐世保にもどってきました。

循環器は本年度も常勤は私一名で、非常勤の先生方に協力して頂き診療を行う体制であり、どこまでできるか手探りの状況ではありますが、自分が携わってきたカテーテル検査・治療を中心に、少しでも地域医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思っておりますので何卒宜しくお願いいたします。

病院機能評価 Ver.6.0 認定 慰労会を終えて 担当：副院長 萩原 博嗣

前号でもお知らせしましたように当院は昨年11月に「病院機能評価」受審を終了してその結果を待っていたところでしたが、去る3月18日に日本医療機能評価機構から「病院機能評価認定証」を受領しました。

病院機能評価とは病院の患者サービスや運営体制が定められた認定基準を満たしているかどうかを、第三者機構が評価するというものです。評価項目は小項目だけでも379項目をかぞえ、約8ヶ月の周到な準備

期間を経て昨年11月11日から3日間にわたって臨んだ受審では、7人の調査担当者による各種のマニュアルや規定など膨大な資料のチェックや、院内をくまなく廻っての医療環境の入念な調査を受けました。

評価最終日に受けた講評では、「大変よく整えられていて模範的といえる」とのお褒めの言葉を頂き、半信半疑の気持ちで結果を待っておりましたが、このほど届いた評価点数は100点満点換算で77.8点という高得点でした。これは、同評価機構がホームページの「認定病院一覧・評価結果」で公開している、結果公開に同意した全国1159病院の中の75点以上の優良70病院に入るのはもちろん、全国のベスト5に位置するという成績です。3月24日に院内で行なわれた「認定慰労会」では職員一同、好成績を祝福して大いに盛り上がりました。

今後もこの受審を機会に高められた病院と職員一人ひとりの意識と能力を維持し、5年後の再受審に向けて更なる向上を図りたいと思っています。



診療活動の現況 麻酔科



深野麻酔科部長

【はじめに】

麻酔科外来は本館3階にあり、弓張岳、ニミツパーク、佐世保港と佐世保が誇る風光明媚な名所を望む、共済病院で一番眺めの良い外来とされています。春の桜、夏の青葉、秋の紅葉、冬の出初式と訪れる患者さん方に喜んでいただいています。

近年麻酔科医不足が叫ばれていますが、当院では幸いにも6名の医師に恵まれており、麻酔業務、ペインクリニック、緩和医療にと勤しんでおります。緩和ケアチームを率いる吉村医師、ペイン外来担当の木本医師、体重約0.1トン強の鳥居医師、お母さんになってもますます元気な別府医師、夫婦で共済病院を支える志田医師、今年で17年目長々とお世話になっています深野、で頑張っております。

【麻酔業務】

現在共済病院の手術室は8室あり、看護スタッフは21名、看護助手3名で運営しております。そこで年間3000症例を超える手術が行われており、1日平均15例の手術が行われている計算になります。全身麻酔症例は約1200症例、腰椎麻酔症例は約1300症例行われており、そのうち麻酔科は全ての全身麻酔症例と200例ほどの腰椎麻酔症例を行っています。

年	18	19	20	21
全手術件数	3019	3351	3100	3071
麻酔管理件数	1332	1554	1377	1290
透視下ブロック症例	22	19	59	57
ペインクリニック症例	192	129	260	287
緩和ケア依頼症例	20	34	52	69

近年の麻酔科領域のトピックスは超短時間作用性の鎮痛剤であるレミフェンタニルが発売されたことです。以前から麻酔薬の代名詞のように言われてきた笑気(N₂O)は現在では使用されていません。地球環境に麻酔科医の及ぼす影響は大きいらしく、全世界の窒素酸化物総排出量の2.5%に寄与しているそうです。この値が大きいのか小さいのかは別にして手術後嘔気の原因の一番手として槍玉に挙げられ、世界中の手術室から笑気は消えていきました。その後の鎮痛はフェンタニルが担っていましたが、呼吸抑制を招くために十分量の投与がなされませんでした。2008年に発売されたレミフェンタニルは調節性が良く、終刀時の残存を全く気にすることなく十分量の投与が行え、周術期のストレスホルモンの分泌も硬膜外麻酔や腰椎麻酔と同等に少ないと報告されています。

さらに2番目のトピックスは、TCI (Target-Controlled Infusion: 目標血中濃度調節投与)、すなわち効果部位濃度を予測しながら麻酔の調節を行う方法が確立されつつある事と、BISモニター (専門の脳波電極から導出して脳波をスペクトラル解析により0~100の数値で表示するモニター) で麻酔深度を予測できるようになった事です。現在の全身麻酔は、麻酔の3大要素のうち鎮痛はレミフェンタニル、鎮静はプロポフォール、無動は筋弛緩剤のロクロニウムと別々の静注薬で達成しています。その効果部位濃度も計算で予測が可能となり麻酔深度も数値表示出来るため、麻酔はかなりシンプルに解り易くなって来ました。機械が麻酔を行うような時代が今すぐにもやって来るのかもしれない。

【麻酔科外来 (ペインクリニック)】

毎日午前中は麻酔科外来で、術前診察、手術当日の硬膜外カテーテル留置、ペインクリニックを行っています。手術当日の硬膜外カテーテル留置は麻酔科開設時より行っており、術後疼痛管理の精度を上げていると考えています。

以下に主なペインクリニック対象症例を紹介いたします。

〈腰下肢痛〉

腰下肢痛に対する保存的治療法として、硬膜外ブロック、硬膜外洗浄、神経根ブロック、パルス高周波等を行っています。また、慢性動脈閉塞症の患者さんに対し腰部交感神経節ブロックを行っています。

〈顔面神経麻痺〉

発症早期より顔面神経管に圧迫された神経を保護するために、顔面の血流を改善する星状神経節ブロックを行っています。第一選択はステロイド剤投与ですが、ブロックを併用したほうが早期の改善に繋がると考えています。

〈顔面痙攣〉

顔面の筋肉の痙攣を抑えるためボツリヌス菌の毒素（ボトックス）の筋肉内注射を行っています。ボツリヌス毒素の注射により注射された部位の筋肉の収縮を抑えることで、筋肉の痙攣、緊張を和らげます。効果は2,3日～2週間で現れ、通常3～4ヶ月持続します。効果がきれた場合は再投与が可能です。

〈三叉神経痛〉

手術に踏み切れない患者さんに対し抗てんかん薬、漢方薬を中心とした薬物療法やアルコール、高周波熱凝固によるブロック療法を行っています。

〈带状疱疹・带状疱疹後神経痛〉

疼痛の性状としてこれほど厭らしいものはないようです。発症から2週間くらいまでの带状疱疹急性期において皮疹部の知覚低下があると神経の炎症が強いと予想され、3ヶ月以降も疼痛が持続する带状疱疹後神経痛に移行しやすいと考えられています。当院では発症早期より硬膜外腔および神経節部にステロイドの投与を行い、出来るだけ早く炎症を鎮めるよう努力しています。胸部の带状疱疹では神経節への投与方法として肋間神経ブロックを試みており、以前よりストレスなく簡便に行えるようになりました。

疼痛が激しい場合は1週間から10日ほど持続硬膜外ブロックを行い疼痛が治まるのを待っています。最近は带状疱疹後神経痛に院内薬局で作って頂いた10%リドカインゲルを使用して好感触を得ています。

【緩和医療】

当院の緩和ケアチームは平成15年に発足いたしました。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW（ソーシャルワーカー）の多職種から成り立っていますが、精神科医が不在のため診療加算が取れないボランティアチームです。現在麻酔科の吉村医師がチームリーダーをしています。各病棟にリンクナースと呼ばれるスパイを置き、「痛い、つらい」という言葉を聞き漏らさないよう情報戦には留意しています。忙しい他科の先生方に代わって主治医になることもありますので、身体症状緩和の御相談がありましたら御一報ください。患者さん方に寄り添うことが出来れば幸いと考えています。



手術室での透視下ブロックの様子



術前の硬膜外チューブ留置の様子



麻酔科スタッフの皆さん

日時：平成22年2月9日（火）18時45分より
会場：当院 8 階大講堂
演題：腎と高血圧
演者：佐賀大学内科学（腎臓）佐内透 准教授



佐内透准教授の講演の様子

2004年より慢性腎臓病に対する国際的な取り組みがなされております。その概念は米国で、欧州・日本などのアジア諸国に広まりました。透析・腎移植を要する末期慢性腎不全が世界的に顕著に増加していることが背景にあります。慢性腎臓病と高血圧は密接な関係があります。今回の講演では、食塩感受性高血圧がいかに腎機能に悪影響を及ぼしているかを圧-利尿曲線を踏まえて解説していただきました。又、外来での血圧コントロールをいかに行うか、24時間血圧計を使っての夜間高血圧の測定の意味などを、御教授いただきました。今後、当院でも慢性腎臓病に対する教育入院をはじめたいと考えております。

地域医療
連携室
より

Part.
8



村上きんしろう循環器内科

〒857-0052 佐世保市松浦町2-21 九十九島ビル3階
 TEL 0956-56-7060

院長 村上 謹士郎 先生

平成 21 年 4 月に佐世保市松浦町の九十九島ビル 3 階で循環器内科を開業した村上謹士郎です。

私は昭和 41 年に当時の佐世保北病院で生まれ、実家は城山町の村上内科病院です。小中高（佐世保北高校）時代を元気に佐世保で育ち、平成 3 年に帝京大学医学部を卒業しました。福岡大学第二内科（現心臓血管内科）に入局後は、大学や福岡県内の病院で特に心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に対する心臓カテーテル検査治療の修練を行いました。平成 15 年からは 6 年間佐世保共済病院循環器内科で勤務いたしましたが、在籍中は諸先生方や職員の方には大変お世話になりました。また、市内の諸先生方にも沢山のご紹介を頂きありがとうございました。

当院では内科一般から循環器疾患、特に生活習慣病やその合併症の予防、早期発見、再発予防に力を入れています。おかげさまで共済病院を中心に各専門領域の先生方と連携できる環境もあり大変感謝しております。当院の特徴としましては①外来で心臓リハビリテーション（心筋梗塞、狭心症、心不全、閉塞性動脈硬化症の予後の改善や再発予防）ができること。②生活習慣病の患者さんに対し、週 1～2 回で簡単なエアロビクスやヨガの教室を行い（保険診療内）栄養や運動の指導のできる環境があること。③心肺機能検査をスポーツ選手や健康に興味のある方に提供できることです。

スポーツドクターの経験も生かしながら地元での若い選手の育成等のお手伝いできればと思っております。

共済病院では医師不足など医療環境の厳しい中全職員の皆さんが頑張られていますので、微力ではございますが当院でもお力になればと思います。村上内科病院の父や兄共々、地元の方々のお役に立てるよう精進致しますので今後とも宜しくお願い致します。



村上院長とスタッフの皆さん（院内ハートスタジオにて）

佐世保共済病院「寅会」のご紹介

副院長 萩原博嗣 (昭和25年・庚寅 生まれ)

寅年にあたる今年も早3ヶ月が過ぎようとしておりますが、当院には「寅会」という懇親の会があります。特にこれといった活動目標があるわけでもないのですが、寅年の者だけで集まって楽しもうという趣旨で50年以上前に始まったそうです。何はなくとも一杯飲みたい先輩達がとにかく集まる口実にしたのであろう当時の、のどかな雰囲気漂っているのが途切れずに今も続いている魅力になっているようです。日頃一緒になる機会もないような顔ぶれが世代を超えて交流するというのはなかなか楽しいもので、今回も84歳のOB御二人を筆頭に36歳まで13人が温泉に集まって大いに盛り上がりました。次回は24歳の世代にも参加してもらって60年の年代差で楽しもうということになりました。(いつも仲居さんたちには何の会ですかと不思議がられています)



嬉野温泉「大正屋」に集まった寅会の面々

佐世保シティロードレースに参加して 放射線検査科副技師長 坂田 義信

平成22年1月24日の西九州自動車道路佐世保みなと・相浦中里間開通記念第60回小柳賞佐世保シティロードレースでは、その名の通り今年3月20日に開通した佐世保みなと～相浦中里間の西九州自動車道がコースになりました。

相浦中里ICから入り佐世保みなとICで折り返すコースで、将冠岳・弓張岳の下を貫通する長いトンネルを抜けると、眼前にニミツパークや市街地が広がり、何とも言えないすばらしい光景でした。佐世保共済病院が目に入る高架上のコースだけは、疲れも忘れて楽しく走ることができました。

佐世保中央ICからだと、共済病院までほんの数分です。更に交通が便利になりますので益々多くの方々に当院を利用して頂けるよう期待しています。



左：福田雄士(管財課) 右：坂田義信



佐世保中央IC 後方から撮影 (左側白い建物が当院)



編集後記

私は、2001年の「きょうさいだより」創刊からのメンバーのひとり、今号で創刊から10年目ということで非常に感慨深いものがあります。一番印象に残っている記事は、創刊号「Topics 朝鮮朝顔」で、小雨の降る中「朝顔」をいかに美しく撮るかに奮闘したことを覚えています。これからも「Vol. 20」めざすべく、日々ネタ探しに奮闘していきます。

編集委員 畑 宏明

佐世保共済病院 外来診療担当表

平成 22 年 4 月 1 日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考（専門分野・特徴など）
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	部長	原口総一郎	●						●				腎臓疾患・人工腎臓
	〃	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	部長代行	田中 實	●		●						●		総合診療科・糖尿病・消化器内科
	医長	樋口 泰雄	●		●				●				内科・神経内科・漢方・禁煙外来
	〃	長門 直	●				●		●				総合診療科・感染症
	医員	金谷 晶子			●						●		腎臓疾患・一般内科（4月26日から）
	〃	大塚 伸			●		●						腎臓疾患
	〃	斧沢 幸司	●								●		腎臓疾患
	非常勤医	田渕くみ子			●								循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	溝口 祐輔									●		呼吸器疾患
〃	熊谷 英太	●		●								循環器疾患	
〃	大野 聡子									●		循環器疾患	
〃	横山 哲也						●					呼吸器疾患	
消化器センター 担当医師			●		●		●		●		●		（診療内容）上部・下部消化管、肝・胆・膵疾患の検査及び治療 （検査内容）胃カメラ、大腸ファイバー、ERCP、PTCD等
外科	外科顧問	松永 章							●				消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	主任部長	井原 司					●		●				消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科
	部長	川畑 方博			●						●		肝胆膵外科・消化器外科・一般外科
	〃	原田 洋			●						●		消化器外科・乳腺外科・一般外科
	〃	富崎 真一	●				●						消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	医長	坂下 英樹	●				●						血管外科・一般外科
	医員	石橋 慶章	●						●				消化器外科・一般外科
	〃	坂田 省三			●				●				呼吸器外科・一般外科
	非常勤医	光岡 正浩									●		呼吸器外科（第1・3・5週のみ）
	〃	武田 雄二									●		呼吸器外科（第2・4週のみ）
小児科	部長	岡 尚記	●		●		●		●		●		小児一般、小児アレルギー疾患、気管支喘息
	非常勤医	小松 博子											
	乳児健診				●								火曜 午後1時から診察開始
	慢性外来							●					水曜 午後2時から診察開始
喘息外来									●			木曜 午後2時から診察開始	
脳神経外科	部長	川口 務	●		▲		●		●		●		脳神経外科 ▲は10時30分までに受付を行って下さい。
	頭痛外来			●	●			●					月曜、水曜 午後2時30分～午後4時30分 火曜 午前11時～午後12時30分
	(頭痛外来は完全予約制)												
整形外科	副院長	萩原 博嗣	●				●				●		膝・股関節疾患、人工関節置換術、骨折、スポーツ障害、小児整形外科
	部長	久我 尚之			●		●		●				脊椎外科、腰痛、骨・軟部腫瘍、骨折
	医長	花田麻須大	●						●		●		手の外科、マイクロスコープ
	医員	水城 安尋			●		●		●		●		肩関節疾患、肩関節鏡視下手術、足部疾患
	〃	志田 義輝	●				●		●				整形外科一般
	〃	烏山 和之	●		●						●		整形外科一般
〃	堀田 謙介											整形外科一般	
皮膚科	医長	大津 正和	●	●	●		●		●	●	●		アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、足白癬、帯状疱疹
	医員	多良 明子	●	●	●		●		●	●	●		皮膚腫瘍、男性型脱毛、陥入爪、ピアス、その他 皮膚腫瘍手術（火・水・金の午後）
泌尿器科	診療部長	山田 潤	●				●				●		尿路結石、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路感染
	部長	江口 二期	※		●				●		●		男性不妊（江口部長）
	医員	東武 昇平	※		●		●		▲				※：第2・4週（江口部長）第1・3・5週（東武医員）が診察を行います ▲の診察は10時30分からです
産婦人科	院長	木寺 義郎	●						●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	部長	鶴地 伸宏	●		■		●		●				腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		■		●		●：婦人科診療日 ■：産科診療日
	医員	田中 章子	●■		▲		●■				●		▲は病棟回診後に診察開始のため遅れます
〃	佐藤 麻衣	●		●				●		■			
眼科	医長	宇野 英明	●		●	※	●	※	●		●		白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、網膜剥離手術、眼瞼下垂手術
	医員	岡村 寛能	●		●	※	●	※	●		●		翼状片手術、レーザー光凝固術、光線力学療法、眼瞼痙攣のボツリヌス注射など ※：火・水曜の午後は術前検査と特殊再来（要連絡）
耳鼻咽喉科	医長	門田 英輝	●		●		●		●		●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療・小児の耳鼻咽喉科疾患
	医員	垣内 康徳	●	●	●		●		●		●		耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	医員	江畑 智広											
	〃	久原 麻子											
麻酔科	部長	深野 拓	●				●		●		●		月～金午前ペイン・緩和ケア外来 月～金午後は手術麻酔
	医長	吉村 真紀			●		●				●		
	医員	木本 文子	●		●				●				
	非常勤医	別府 幸岐											
〃	志田知佳美												
歯科 口腔外科	医長	川村 英司	●	●	●	●	●	●	●		●	●	歯科・口腔外科（紹介患者のみ新患受付）
	医員	角町 鎮男	●	●	●	●	●	●	●		●	●	顎変形症（外科的矯正）・インプラント・歯牙移植・顎関節症・マウスピースなど
健診センター	医長	原 敬一	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。										
糖尿病教室								●		●		●	（第2・3週のみ）※詳細は内科外来へお尋ね下さい。
ストーマ外来			※お申し込み・お問い合わせは、外科・泌尿器科外来までお電話下さい。										